



バニッシャー

ばにっしゃー



バニッシャー (拡大写真)

概要

バニッシャーは、銅版画の制作において、トーンの調整や版の修正など様々な用途に使用される鋼鉄製の棒状の道具です。

バニッシャーは、先端に行くほど緩やかにカーブを描いて尖り、イカの骨のような形状をしていて、断面は楕円形です。

この道具は、先端付近の丸まった部分を使い、押さえ慣らすように磨く作業で使用します。作業を潤滑にするため、機械油（ミシン油）をつけながら磨きます。用途はアクアチントやメゾチントのトーン（階調）を上げる、スクレーパーで削りとった部位の慣らし、細部の修正、プレートマークの仕上げ研磨など様々な場面に使われます。

特にメゾチントにおいては、スクレーパーと共に重要な描画用具として使用され、版面のまくれをスクレーパーで削り取った後にバニッシャーで磨きます。あるいはバニッシャー単体のみでも使用します。まくれの高さを削り、磨くことで多くの階調を得ることができます。

スクレーパーは「けずる・こそぐ」バニッシャーは「なめる・みがく」と覚えておくと良いでしょう。

バニッシャーは持ち手に木製の柄が付いたもの、全て金属製で片側にニードルやスクレーパーが付いているものなど様々な種類があります。バニッシャーは版面を磨く道具なので、保存する際には錆びてしまわぬよう、機械油を染み込ませたウエスなどを巻いて保存するのが良いでしょう。

バニッシャーは、版画材料を取り扱っている画材店などで購入することができます。

あ

か

さ

た

な

は

ま

や

ら

わ

A

B

C

D

E

F

G

H

I

J

K

L

M

N

O

P

Q

R

S

T

U

V

W

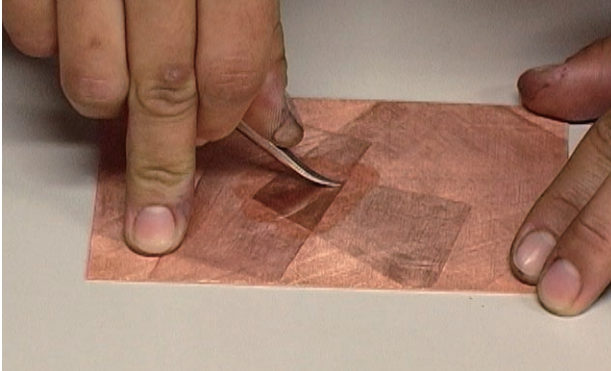
X

Y

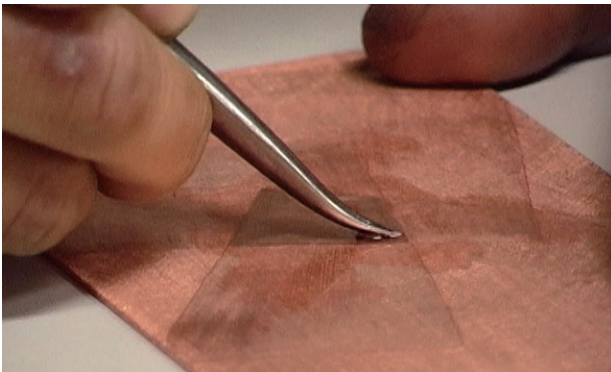
Z

数字

使用例1 メゾチントで描画する

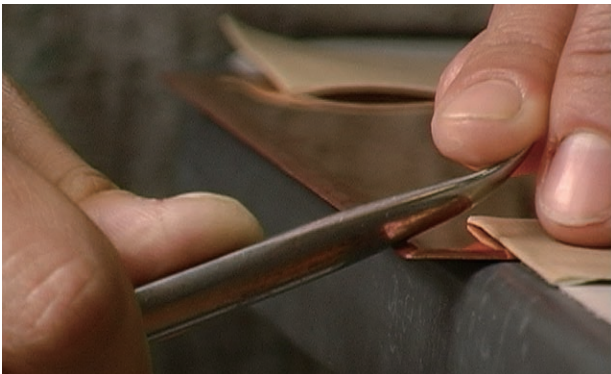


手順1. スクレーパーで描画をした後、明るく仕上げたい部分（白く仕上げたい部分）をバニッシャーを使い磨いていきます。



手順2. 機械油を使用し丁寧に磨きます。この作業を行った部分は、版面が平らになり白く印刷されます。

使用例2 プレートマークを整える



手順1. 金やすりで削り、スクレーパーで整えたプレートマークに、機械油を数滴のばしバニッシャーで磨きます。この時、画面まで磨かないように気をつけましょう。この作業を行うことで作品に銅版画特有の美しい凹み（プレートマーク）がつけられます。